慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

2013年 新棟建設募金始まる

三四会が牽引役となり 新病院棟を実現！

新春特別座談会

医学部長　末松　誠（医化62回）
三四会長　比企　能樹（外37回）
常任理事　戸山　芳昭（整54回）

2012年9月、慶應義塾理事会と評議員会において、「医学部創立100年記念―新病院棟建設事業―募金趣意書」の稟議が協議され、新病院棟建設計画が承認されました。新病院棟建設は、総予算300億円規模で、医学部創立100年を迎える2017年度末までに竣工する予定です。そのための募金では、平成25年1月から平成29年3月末までの期間で、募金、100億円を目指します。三四会としても、悲願ともいえる新病院棟建設を実現すべく、募金活動を推進していきます。そこで、平成25年の幕開けとともに始まる新病院棟建設のための募金活動をはじめ、医学部創立100年に向けた新たな一歩について、比企三四会長、戸山常任理事、末松医学部長に聞きました。（本文中は敬称略）

新棟建設計画のスタート

―新年あけましておめでとうございます。昨年はついに新病院棟建設について正式なゴーサインが出たそうですが、今年度からはどのように進むのでしょうか。

戸山　新病院棟建設については、安西前塾長の下で始まった慶應義塾創立150年記念事業と連動して動き始めました。新棟建設のゴーサイン自体は2号基本金組み入れが決まった平成22年の段階で出ていたのですが、昨年9月の塾理事会・評議員会で事業計画と募金の枠組み等が決まりました。新病院棟建設の総予算は300億円規模を予定しており、塾法人から140億円、寄付で100億円、さらに平成24年度から平成29年度までの6年間の病院収入で60億円を積み立てる。つまり、総予算の3分の1に当たる100億円を、募金で集めることに決まりました。もちろん、新病院棟が建てばいいのではなく、信濃町キャンパスの医学部・病院の経営、ソフト面についても、新病院に相応しいものを構築しなければならず、改革刷新プロジェクトスタート当時から医学部・病院で努力してきました。

末松　新しい病院の建設プロセスは決まりましたが、建物ができるまで待つのではなく、今からソフト面とインフラ整備をしておく必要があるでしょう。たとえば平成24年は電子カルテが導入されましたが、臨床の現場から集まってくるゲノム情報をはじめとした大量の情報から特定疾患の進行具合などを判断する場合のビッグデータの二次利用をどうするか、まだまだ検討が必要です。また、経営面において黒字化を継続するために診療科ごとの収支を明確にするのはもちろん、基礎教室でも研究費の獲得状況などを明らかにしていく。さらに、教育中核病院に派遣している医師数についてもモニターし、人事に反映させる。新しい病院ではどのような陣容がもっともパフォーマンスが上がるのか、平成25年は今まで以上に徹底して考えていきます。

戸山　病院については、ハード・ソフト両面からしっかり見直すことはもちろんのこと、疾患動態や人口動態など世の中の流れを把握することも重要で、世の中が変化していくなかで慶應医学がどこを目指していくのか、コンセンサスを取っていかなければいけません。今は、まさにその点を見直し、変えていく時期にあると感じています。

―こうした流れに対して、三四会としてはどのように関わっていかれるのでしょうか。

比企　最初に戸山理事がお話になった通り、塾全体で新病院棟建設に向けた議論が進められ、そのための寄付が認められたことは大変大きな一歩です。私も募金委員会の一員として、これからは実行委員会を立ち上げて寄付に向けて進めていきます。ただし、皆さんには150年事業のときにも新病院棟建設のための募金をお願いしました。その計画に従って、別館の跡地に3号館北棟と南棟ができたのですが、どこからどこまでが150年事業の寄付によるもので、これからの新病院棟建設にはどれくらい活用されるのか、きちんと示す必要があると思います。

戸山　150年記念事業には「信濃町キャンパスの新病院棟建設」も含まれており、募金総額250億円を目標にしていました。結果280億円以上が集まり、そのうちの10億円が3号館、40億円が新病院棟というように、当時は割り振られていました。三四会員の個人・法人では12・9億円もの御寄付をいただきましたが、集まったお金は他学部からの募金と同じように、義塾全体への寄付の一部として捉えられていました。しかし、三四会員の皆さんの新病院棟への強い思いを考慮して、12・9億円は新病院棟建設分に充当できることになりました。この12・9億円は、このたび義塾が新病院棟建設に対して担保した140億円のなかに含まれています。

比企　医学部100年事業の募金は義塾創立150年事業の当初計画を更に大幅に凌駕する施設を建設するもので、今回の募金はその点に主眼を置いて行われるものです。

新棟建設に向けた募金

―新病院棟建設に向けて、平成25年度の目標や課題などお話ください。

戸山　現在の厳しい経済状況において、総予算である300億円を集めるのは大変なことです。そのうち3分の1の100億円を寄付により集める訳ですが、三四会の方には個人・法人で30～40億円を、そして全塾として企業や塾員より60～70億円の募金を目標としています。この数字の根拠となったのは、2号館が建設された塾125周年のときの金額です。このときは塾全体で180億円の目標に対して190億円強が集まりました。そして2号館の総予算120億円に対して、何と37億円を三四会の個人と法人で集めてくれました。当時の三四会のパワーを強く感じています。

末松　戸山先生をはじめとした義塾評議員の先生を中心とした募金委員会に続き、募金実行委員会を我々が作りますが、今後はこれまでにも増して塾と医学部・病院による共同作業が大切になってくると思います。募金集めにおいても、三四会個人と塾員とできっちりセパレートするのではなく、重なる部分がかなりある。今回の目標金額を三四会員だけで集めようとするとかなり厳しいものがありますが、三四会員と塾員が協力して集めるという意識でいていただきたいと思います（図参照）。

―普通部出身の三四会員は、同級生に声を掛ける。開業医なら、慶應出身または慶應に理解のある患者さんに協力をお願いするということですね。

比企　前回募金をしてよくわかったことは、足を使って、直接会ってお願いすることがいかに大切かということです。ただ手紙を送っただけでは募金に対する熱意は伝わりません。特に今回は、塾全体の顔であるべき医学部・病院のことであり、塾員はもとより一般の方々のための施設でもあるということから、他の周年事業とは異なり「広く社会に寄与する病院」という意識を持って募金活動をしていこうと思っています。

戸山　塾としても、新棟建設には全力で対応してくれています。募金委員会委員長に塾評議員会議長の西室氏、顧問には歴代塾長や福澤氏、北里氏、保利氏が、委員にも錚々たる企業トップの学外理事、評議員の方々にしっかり見直すことはもちろんのこと、疾患動態や人口動態など世の中の流れを把握することも重要で、世の中が変化していくなかで慶應医学がどこを目指していくのか、コンセンサスを取っていかなければいけません。今は、まさにその点を見直し、変えていく時期にあると感じています。

―こうした流れに対して、三四会としてはどのように関わっていかれるのでしょうか。

比企　最初に戸山理事がお話になった通り、塾全体で新病院棟建設に向けた議論が進められ、そのための寄付が認められたことは大変大きな一歩です。私も募金委員会の一員として、これからは実行委員会を立ち上げて寄付に向けて進めていきます。ただし、皆さんには150年事業のときにも新病院棟建設のための募金をお願いしました。その計画に従って、別館の跡地に3号館北棟と南棟ができたのですが、どこからどこまでが150年事業の寄付によるもので、これからの新病院棟建設にはどれくらい活用されるのか、きちんと示す必要があると思います。

戸山　150年記念事業には「信濃町キャンパスの新病院棟建設」も含まれており、募金総額250億円を目標にしていました。結果280億円以上が集まり、そのうちの10億円が3号館、40億円が新病院棟というように、当時は割り振られていました。三四会員の個人・法人では12・9億円もの御寄付をいただきましたが、集まったお金は他学部からの募金と同じように、義塾全体への寄付の一部として捉えられていました。しかし、三四会員の皆さんの新病院棟への強い思いを考慮して、12・9億円は新病院棟建設分に充当できることになりました。この12・9億円は、このたび義塾が新病院棟建設に対して担保した140億円のなかに含まれています。

比企　医学部100年事業の募金は義塾創立150年事業の当初計画を更に大幅に凌駕する施設を建設するもので、今回の募金はその点に主眼を置いて行われるものです。

新年度の課題と目標

―では最後に、それぞれの今年の抱負と三四会員の皆さんに向けたメッセージをお願いします。

比企　全国の三四会支部会では、戸山理事や末松医学部長、武田病院長にも同行してもらっていることもあり、常に熱心な対応をしてもらっています。それと同時に、たとえば紹介患者さんの対応についてなど、たくさんのご指摘や要望もいただいております。そういった要望を実現できるかどうか、三四会の理事会で検討しながら、将来検討委員会を含めて進めていこうと思います。しかし、支部会に出席して下さるのは一部の三四会員であり、臨床研修先の病院に就職した若い医師に対するアプローチが充分ではなかったという反省もあります。若手医師や学生に対しては、これまで卒業式や謝恩会でアプローチしてきましたが、もっと彼らへの接触を密にやっていかなければいけないと思っています。特に白衣式のときは卒業生の父兄も大いに集まる素晴らしいセレモニーですから、父兄とのネットワークを築く良い機会になります。もちろん、関連病院との連携をさらに強めることも大切です。三四会では、卒回ごとの2人の評議員、診療科ごとの代表者、各地域の支部長などを集めた評議員会を毎年行っており、1000周年に向けた結束はますます強く密にならねばならないと思っています。この医学部新聞の役割もとても大切です。この紙面を通じて今後も全国の三四会員同士のネットワークを築いていきますから、編集委員長である坪田教授にもますます夢をもって頑張って頂きたいと思います。

戸山　信濃町では、約9000人の三四会員の皆さんに、母校を愛し、誇りに思ってもらえるような病院を構築していきます。たとえば、基礎・臨床ともに良い論文が次々に出て次の100年では慶應医学からノーベル賞受賞者を輩出し、どんなに難しい疾患も慶應病院なら治せると言われるようになることもその一つです。そして、三四会員の方には、まずご自分が病気になられたときに慶應病院で治してほしいと思える、そして患者さんを紹介したときもきちんと診て戻してもらえる。そのためには慶應病院の臨床力をさらに高めること、それに対応するシステムを構築すること。新病院棟にはそういった機能を組み込んでおくことが大切で、優れた医療人の育成も不可欠だと思います。そういった素晴らしい病院を作るためにも、どうかご協力をお願いします。

末松　我々が医学部創立100年に向けて目指すものは、ほかの病院では診断がつかないような難病や希少疾患であっても、慶應に来れば診断や治療ができるということをきちんと宣言して、社会の人たちに分かってもらうことだと考えています。しかし、私学の慶應病院では、何らかの工夫をすることは可能だと思います。それに、サポーターは三四会員や塾員だけとは限りません。米国のMDアンダーソンキャンサーセンターでは、過去にその病院で治療を受けたがん患者さんもサポートスタッフとして病院の医療に参加しています。我々はまだまだそのレベルには達していませんが、塾員であるか否かに関わらず、慶應病院に来て本当に良かったと思ってくれる患者さんが増えてくれれば、その人たちがサポートになってくれるはずです。ですから、塾員に手厚くすることはもちろん、患者さんをはじめとした慶應病院に関わる全ての人を見ていく必要があると思います。

戸山　昨年予防医療センターができたことで、予防から治療まで慶應病院が責任を持ってやっていくという姿勢を企業トップの方たちにアピールしやすくなりました。そういったことも活用していくべきでしょう。

末松　企業へのアプローチということでは、ヘルスケア産業の科学的基盤としての大学の役割として推進されている「KEAP（KEIO Employee Assistance Program）」も有効です。その一環で今春オープン予定のストレス研究センターでは、従来企業内で行われてきたストレスマネジメントやメンタルケアの部分を、精神神経科や公衆衛生の人たちが中心となってサポートしていきます。そういったサポートに対して企業側からもきちんと投資をしてもらうなど、新しい仕組みを作り上げていく。一方で、収支向上のために無駄を削るなど現場では一層の努力をしていきますが、塾執行部の方々には新しいことを始めることを躊躇しないでいただきたい。これは戸山理事へのお願いでもあります（笑）。

戸山　不要だと思われる部分はクローズしていく一方で、新しいことへのチャレンジには全力でサポートしていきます。

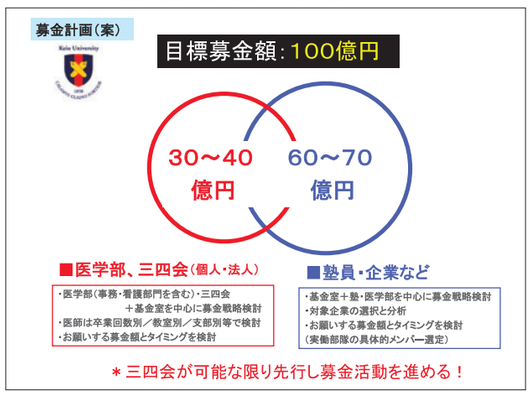
三四会員の皆さんに愛され、誇りとなる信濃町キャンパスに（戸山）

新病院棟のために今からソフト面・経営面の充実を（末松）

全国の三四会支部の強い思いを形にしていく（比企）

信濃町キャンパス事業完成予想図

募金活動にあたってのイメージ



病院からのお知らせ

三四会ホットライン

三四会の先生方からの患者予約受付を円滑にするため、専用回線を設けました。1月15日（火）より開始いたしますので、ご活用ください。

TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

腫瘍センター〝がん専門初診外来〟の開始

1月より〝がん専門初診外来〟を新設します。当面は消化器がん、肺がん、乳がんを対象に、迅速な診断システムと、早期からの専門家の臨床腫瘍クラスターによる、最適ながん治療計画を提供します。外来予約センター（三四会ホットライン、または医療機関用受付03-3353-1257）にご連絡ください。

PET/CT・SPECT検査予約

三四会の先生方からのPET/CT、SPECT検査の予約を承っております。迅速な検査予約（PETは最短は翌日から）と正確な検査報告をご提供いたします。下記にご連絡ください。

PET/CT…03-5843-6165 SPECT…03-5843-7071

鑑賞知来

▽毎年12月に発表される、その年の世相を表す「今年の漢字」に、「金」が選ばれました。①金環日食などの天文現象、②オリンピック、ノーベル賞などの「金」字塔、といったポジティブな側面と、③消費税増税や東日本大震災復興予算使途をめぐる「金（かね）」の問題、といったネガティブな側面の両方を踏まえた「金」なのだそうです。

▽社会における光や闇は私たちの心の写し鏡であり、どんな事物も、私たちの心にどう映るかによって輝きも曇りもします。

▽近年、心理学の世界ではポジティブ心理学という分野が注目され、日本でもポジティブサイコロジー医学会が発足しました。ポジティブ心理学は個人や社会の発展につながる強みや長所を研究する分野で、ただ精神疾患を治すのではなく、通常の人生をより充実させ幸福感を高めることを指向します。

▽幸福感に関係する要因は多数ありますが、そのかなりの部分は人間の意思でコントロールできることがわかっています。たとえば、お金は、あるところまでは幸福感を増しますが、中流に達すると、それ以上増えても幸福感はほとんど増えません。それよりも、親切心や感謝の念や愛する能力などの対人的な徳が幸福感に強く影響します。

▽私たち医学者は、さまざまな立場で、病から患者さんを救うべく働いていますが、重篤な身体状況にあっても、〝幸福度〟は決して低くない患者さんたちは大勢いらっしゃいます。病気を治すとともに幸福度を高める医療も意識したいものです。

▽幸福感を増すには以下のようなことが役立つようです：週1回自分の幸福を数える時間を持つこと、自分の強みを知ってそれを生かすようにすること、他者に多くを与えること、他人と自分を比較しないこと、生涯にわたる目標や夢に全力を傾けること、等々。

▽新しい一年、私たちの心の中の「金（きん）」を再発見し、磨きたいものです。今年もよろしくお願いいたします。

（国立がん研究センター東病院精神腫瘍科　藤澤大介　77回）